

事業概要書

事業名	コロナ禍における復興住宅のコミュニティ支援事業				
開始日	2021年4月1日	終了日	2022年3月31日	日数	365日
団体名	特定非営利活動法人石巻復興支援ネットワーク				
(カウンターパート)	復興住宅自治会(あけぼの北復興、新西前沼第一復興住宅、湊復興住宅、新沼田第一復興住宅)				
担当者名	高橋 洋祐	スタッフ人数	5人		

事業費総額(税込)	1,765,000円
CF事業枠	1,000,000円
その他資金	765,000円

事業目的	<p>コロナ禍で孤立が深刻化する高齢の復興住宅居住者を対象に、遠足企画、自宅でも取り組める脳トレドリルの配布やヨガ動画の作成・配信を通じ、交流の機会の創出や運動不足解消、認知症予防につなげ、復興住宅住民の安心と健全な生活を守る。</p>
事業全体の概要	<p>●取り組むべき課題</p> <p>石巻地域は宮城県内で最も東日本大震災の被害を受けた地域である。住民の多くが避難所、仮設住宅、復興住宅へと引越しを重ね(※1)、コミュニティが何度も分断されている。震災以前に住んでいた地域から離れた人や、仮設住宅から復興住宅に移転した人、別な土地で自宅再建した人の中には、新しい土地に馴染めずに孤立している人が多く、周りに相談できる人がいないため一人で悩んでいる人も多い。</p> <p>特に復興住宅での高齢者の孤立問題は年々深刻化しており、震災以前に住んでいた地域から離れた人や仮設住宅から復興住宅に移転した人の中には、新しい土地に馴染めずに孤立している人が多く、周りに相談できる人がいないという声が多く聞かれている。そのような中で一人暮らしの高齢者の孤独死が増加し、宮城県において復興住宅で孤独死した人の数は2019年末までの間に162人。隣接する岩手県では46人、福島県では43人であることを考えると、宮城県における孤独死の数は群を抜いており、その数字は年を追うごとに右肩上がりとなっている。これは仮設住宅での宮城県の孤独死数の109人よりも増加しており、復興住宅の閉鎖的な暮らしがもたらす影響が見て取れる(※1)。度重なる転居によるコミュニティの分断が引き起こした高齢者の孤立化は、高齢化が進む東日本大震災の被災地では大きな問題となっている。</p> <p>また、新型コロナウイルスの感染拡大により、孤立化はより一層深刻化している。高齢の住民が多く、平常時でさえ少ない外出の機会が、さらに減少したことによる身体機能の低下、精神衛生上の問題が懸念されている。</p> <p>これまで住民主体の企画、活動のサポートを行ってきた結果、住民自身が主体的に活動する力がだんだんついてきたところで、コロナの影響を受けることとなってしまった。今後もコロナの影響は長く続くことが予想される。感染すれば重症化しやすい高齢</p>

者が参加する活動においては、より慎重かつ厳重に感染予防対策を講じる必要がある。そこで、当該団体スタッフ主導で十分な感染予防対策を講じた上での遠足や、自宅中心の生活に少しでもハリを持たせるため、戸別訪問をするための機会を作り、自宅で体を動かし身体機能の低下を防ぐなどの対策を講じることが求められている。他者との接触が減る中であっても、工夫を凝らした活動で、孤立感の軽減、孤独死の減少につなげていきたいと考えている。

※1…被災3県の孤独死累計 仮設住宅 243 件（岩手 46 件、109 件、福島 88 件）災害公営住宅 251 件（岩手 46 件、宮城 162 件、福島 43 件）宮城 2020 年 3 月河北新報調査

●パートナー協働プログラム対象事業

コンポーネント①孤立解消と交流のための遠足事業

・石巻圏域の復興住宅住民、慣れない土地で孤立している住民の孤立防止を目的に、住民と住民を繋ぐ住民企画型の遠足を実施する。復興住宅に住む高齢の住民は、遠出する機会もほとんどないため、年に 1 回でも遠出する機会をつくることによって、生きがいにも繋がる。

コンポーネント②認知症予防、つながりを感じてもらうための脳トレドリルの作成と配布

・孤立しがちな住民の認知症予防、継続的なつながりを感じてもらうことを目的とし、脳トレドリルの作成と配布を実施し、訪問時に健康状態の確認、相談対応等も実施する。ドリルにはこれまでのイベントの写真等も盛り込み、自宅にいてもつながりを感じられるよう工夫する。

コンポーネント③運動不足解消、認知症予防のためのヨガ動画作成

・外出の機会が少ない住民の運動不足解消と認知症予防を目的とし、自宅でも取り組めるヨガ動画を作成、提供する。作成にあたって協力をいただくのは、地元住民の講師であり、復興住宅のイベントでも講師をお願いしている。動画にすることで自宅でも気軽に取り組み、運動不足解消、認知症予防に貢献できる。

●期待される効果

コンポーネント①

・度重なる移転により、離れ離れになった住民同士、また各地域の住民同士が交流することにより、新たな繋がりや交流する機会が生まれる。
・年に 1 回の遠出の機会が、高齢の住民の生きがいになる。
・住民に企画から関わってもらうことで、主体的に活動に関わる意識を醸成でき、達成感や成功体験を積むことができる。

コンポーネント②

	<ul style="list-style-type: none"> ・自宅にいても取り組むものがあることで生活に張り合いができる。 ・脳トレドリルにイベントで集まっている写真等を使うことで、つながりを確認できる。 ・配布時に体調確認や相談にのることで、孤立感の軽減、異変等の早期発見ができる。 <p>コンポーネント③</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自宅にいても運動する機会をつくりだすことで、運動不足やストレスの解消、認知症予防の効果が期待できる。 ・動画にすることで1人でも取り組みやすく、継続しやすい。 ・イベントで顔を合わせている講師を登用することで、運動するだけでなく、交流している感覚も得られる。 ・次にくる災害や避難生活等にも備えることができる。
事業内容(事業種別 (コンポーネント) ごと)	
<p><u>コンポーネント①孤立解消と交流のための遠足事業</u></p> <p>(1)時期 6月もしくは10月予定</p> <p>(2)場所 復興住宅住民らと企画により決定する</p> <p>(3)対象者・人数 大型バス1台25名×2台</p> <p>(4)内容 度重なる移転により分断された住民と住民をつなぎ、遠出の機会をつくるため、住民企画型の遠足を実施する。</p> <p>※コロナ渦の状況、ワクチン接種の状況により、バス1台での遠足を2回にわけて行うか、バス2台で1度に行う。また時期等も状況を見ながら判断していく。</p>	<p>裨益者 (誰が、何人)</p> <p>復興住宅住民、自立再建者 50人</p>
<p><u>コンポーネント②認知症予防、つながりを感じてもらうための脳トレドリルの作成と配布</u></p> <p>(1)時期 通年</p> <p>(2)場所 復興住宅住民宅、自立再建者自宅等</p> <p>(3)対象者・人数 復興住宅に住む高齢の住民 100名</p> <p>(4)内容 脳トレドリルの作成と配布を実施する。また、配布の際に体調確認や相談等を聞き、孤立感の解消や異変等の早期発見、早期対応ができる体制をとる。</p>	<p>復興住宅住民、自立再建者 100人</p>
<p><u>コンポーネント③運動不足解消、認知症予防のためのヨガ動画作成</u></p> <p>(1)時期 通年</p> <p>(2)場所 動画作成:石巻復興支援ネットワーク事務所 ディスクにて各住民のもとへ配布</p> <p>(3)対象者・人数 復興住宅に住む高齢の住民 30名</p> <p>(4)内容 外出の機会の少ない復興住宅の高齢者の運動不足解消、認知症予防のため、自宅で取り組めるヨガ動画を作成、配布する。</p>	<p>復興住宅住民、自立再建者 30人</p>